## 利用者さんコラム コミュニケーション障害 リハビリ体験④

(報リハ14,15,16号: 再スタートリハビリ体験①~③の続き)

3か月間入院したと述べたが、実は同じ病院に居座り続けたのではなく、途中一度 転院している。正確にいうと、初めの5週間は大病院、後の7週間はリハビリ特化型 医療施設にいた。そもそも3月に入院し、誤嚥防止のための食道・気管支分離手術を 経てリハビリ専門の施設に転院することは予定どおりであった。想定外は、本当に誤 嚥性肺炎に入院の2週間前にかかってしまい入院期間が予定よりも長くなってしまっ たこと、体力の消耗と身体能力の低下が著しかったことである。

転院のときの体重は入院前と比べて15kg減の38kgとなっていた。点滴 だけで1か月近く過ごしたためで、転院する頃には食事に切り替わって いたが、回復にはほど遠く、立つのがやっとだった。要するに寝たきり 状態である。多系統萎縮症の場合、個人差は大きいものの発症から5年 で車椅子生活、6年で寝たきりという症状の経過をたどるとされる。

私も6年目を迎えるが、歩行の支障が大きくなり1月から外出時には車椅子を使わ ざるをえなかった。しかし寝たきりになるのは、まだ受け入れられず踏ん張りどころ と考えていた。その矢先の入院だった。有無をいわさず寝たきり状態になってしまっ た、というわけである。そのため少々焦っていた。肺炎になったのは突発的な出来事 で、症状の悪化のためではない。だから、速やかにリハビリを再開すれば、今ならま だ入院直前の状態に戻ることはできるはずだ――と考えた。



成算があるわけではなかったが、治療法がないのだから、ただ待って いてもしかたない。ささやかながら、吉兆らしきものもあった。入院し て間もない頃から懇意にしてくれた理学療法士が4週目頃になると歩行 訓練を始めてくれた。両腕を支えられながらの"よちよち歩き"で10mほ どであったが、立つだけでもやっとだっただけに急に未来が開けたよう な気がした。驚いたのはナースステーションの前の廊下だったために、

看護師の一人がすぐに気が付いて「――さんだ!」と私の名を叫んだことである。

すると、その場にいた10数名の看護師がいっせいに振り向き、 どよめきが起きた。続いて拍手も。廊下に飛び出してきた看護 師も2名いた。そのうちの一人が何か声をかけてくれたが、よ く聴き取れなかった。彼女たちの温かい拍手と声援に背中を押 されて私は幸先よいリハビリの再スタートを切ったと感じた。

しかし、ただちに体を鍛えることに専念するわけにはいか なかった。療法士や他のスタッフとのコミュニケーションの 仕方を見直さなければならなかったからだ。私は気管支分離 手術にともない声帯を失った。それは事前に知っており、私 なりに準備をしていた。小声、不明瞭な滑舌など発声障害が 2年前くらいからひどくなった。





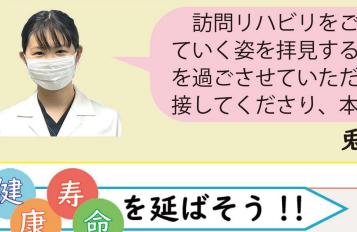
西部総合病院 訪問リハビリ ~みんなで造る・地域を繋ぐ広報誌~				
	曜日	時間	担当医	
	水曜日	17時	大友医師	
	木曜日	午前	関山医師	

午後

余曜日

## 火曜日のリハビリ会議を担当していた兎川医師が3月で終了となりました

関山医師



「何をするにも億劫」「外出をする用事もない」といった理由で外出の機会が減ることで、周囲への関心が薄れて知的活動が減少し、認知機能の低下にもつながります。閉じこもりの予防は社会参加と人とのつながりが大切。外に出かける習慣をつけましょう。

## 閉じこもり防止のポイント!

①服装	朝起きたら着替えています
②身だしなみ	歯磨き、化粧やひげの手入
③生活リズム	朝決まった時間に起きて、
④運動習慣	足腰の元気を維持するため
⑤家庭での役割	家事、ゴミ出し、ペットの
歩くこと	を中心として楽しみなが



ハビリ会議の日程が変更になります



関山医師



大友医師

訪問リハビリをご利用の患者様が、笑顔が多くなっ ていく姿を拝見することができて、とても楽しい時間 を過ごさせていただきました。療法士の皆様も優しく 接してくださり、本当にありがとうございました。

兎川先生ありがとうございました

## 介護予防シリーズ 第5回 フレイルについて学ぼう

「か。すぐに出かけられる服装をしていますか。

れなどを日課にしていますか。

しっかり朝食を食べていますか。

りの運動や体操を取り入れていますか。

)世話など家庭での役割を持っていますか。

歩くことを中心として楽しみながら 継続的な健康づくりを支援する 「さいたま市健康マイレージ」の紹介はこちら



次号では、 認知症の予防について 解説していきます。



編集/発行 医療法人聖仁会 西部総合病院 リハビリテーション部 訪問リハビリテーション 〒338-0824 埼玉県さいたま市桜区上大久保 884 電話 048-854-1111 FAX 048-855-3285 発行 2024.04

